

瀋陽駐在員事務所

「11月11日」

数字の「1」が4つ並ぶ11月11日は、某お菓子メーカー製品をはじめ日本でも様々な記念日とされています。

中国では数字の「1」が一人で立っている様子を連想させることから、「独身者の日」とされ、新聞等では「光棍(独り者)節」或いは「双十一」(ダブル 11)と表記されます。当初はネット通販会社が未婚者向けの販促として始めたものですが、現在では一般に普及し、1日限定ではありますが、割引やセール、プレゼントなど日本のクリスマス時期を凌ぐ一大商戦が繰り広げられます。

消費者側もよく事情を承知しており、事前に通販サイトの「買い物籠」に希望の商品をストックしておき、割引が行われる11月11日になるのを待って「購入」といった行動をとる人も多いようです。大手サイト「天猫」では午前0時の開始後8分間で売上が1億元(19億円)、21分後には2億元(38億円)を突破、1日だけで571億元(約1兆800億円)を記録、昨年の362億元(約6,880億円)から大幅に伸びたと報道されています。こうした個人消費の「瞬発力」、日本での増税前の駆け込み需要とのスケールの違いを思わずにはられません。

南 敏律



ユジノサハリンスク駐在員事務所

【サハリン史跡巡り】

先月、サハリン日本人会主催でジノハリンスク市内の史跡を巡るツアーが開催されました。既に皆様ご存知の通り、日露戦争後のポーツマス条約(1905年)により、北緯50度以南が日本の領土となり、大戦後の1945年までの40年間、日本がこの地を統治していました。現在もなお、この当時建てられた建造物を数多く見ることが出来ます。今回のツアーでサハリン(樺太)の歴史を現存する建造物を見ることで、大まかな輪郭を掴むことができました。その全てを紹介することは出来ませんが、印象に残ったものをいくつかご紹介します。

写真上段は「旧樺太守備隊司令官官舎」で現存する樺太時代の建物としては最も古い建造物で1908年に造られました。現在は「軍事裁判所」として使用されています。写真下段は「旧豊原町役場」で今でも形状は当時の面影を残しています。1928年に火事で焼失後、建て替えられ現在はオフィスビルとして民間企業が入居しています。この他にも日本人がサハリンを訪問したら必ず訪れる「旧樺太庁博物館(現サハリン州郷土史博物館)」、北海道拓殖銀行豊原支店(現サハリン州美術館)、旧樺太庁豊原病院(現軍事病院)など、80年近くの時を過ぎても今なお現存しています。ジノハリンスクを訪れると、市街地が碁盤目状に整然と区画されていることから「小札幌」の様で美しいと思われるかたも多くいらっしゃいます。ビジネスで訪れるかたわらで、旧豊原(豊かな平原)を探求するのもサハリンの魅力の一つだと思います。



旧樺太守備隊司令官官舎



旧豊原町役場

三上 訓人

ウラジオストク駐在員事務所

北海道大学病院ロシア極東医療ミッションについて

国立大学法人 北海道大学病院が、ロシア極東地域の医療機関等との連携促進を目的に、10月19日～25日の日程で、サハリン州・沿海地方・ハバロフスク地方へミッションを派遣しました。寶金清博病院長を団長に、当行をはじめ北海道経済産業局、北海道庁等が協力機関として参画しました。

北大病院の陽子線治療センターなどの最新医療施設・医療技術などのプレゼンテーションや現地の医療機関等の代表者との意見交換、現地医療機関等の視察を行い、ロシア極東の医療の現状を詳しく知ることができました。

今回の成果として、北大病院は、極東国立医科大学と医師や学生の相互交流を柱とした協力協定を締結し、極東連邦大学メディカルセンター及びハバロフスク地方腫瘍センターとはそれぞれ協力協定締結に向けた議事録に署名しました。

今後、医師や学生の交流を通じたロシア極東地域の医療水準向上のほか、高齢化や過疎化、広大な面積をカバーする地域医療など互いの共通課題について一緒に検討してゆくなど、ロシア極東地域との医療での連携がさらに発展してゆくものと思われまます。また、北大病院には世界的にも最先端の医療施設・医療技術があり、今回そのことをうまくPRできたため、ロシア人医師の研修受入やロシア人患者の受入等が進んでゆき、人的交流が活発になることが期待されます。



伊藤 清平

カシコン銀行

「AEC+3 SUMMIT & EXPO 2014 “Unleash Prosperity Through Regional Connectivity”の開催」

今月11月2日から4日にかけて、標題のビッグイベントがカシコン銀行主催のもと、タイバンコクで開催されました。カシコン銀行提携行である9か国35行の役員をバンコクに招聘し、国際金融への昇華を目指し、協力関係を構築しようとする目的で「バンコク宣言」への署名がなされました。また、同時にビジネスマッチングも並行して開催され、各行のお客様であるセラー及びバイヤー、約200社のマッチングイベントとなりました。

2015年末を目処にASEAN経済共同体「AEC」が発足される見込みとなっております。厳密には異なりますが、AECはヨーロッパのEUのような共同体を目指すもので、発足すれば約6億人の巨大市場が形成されることとなります。以前も当レポートで記載しておりますが、バンコクへの進出はバンコクのみにとどまらず、陸続きのCLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）から、2億5千万人の人口を有するインドネシアまで広がる可能性を秘めています。現状、世界で最も高い経済成長率を誇るASEAN、是非ご相談をお待ちしております。



伊藤 彰浩